KDDI総合研究所 海外5G/6Gトピックス（26年9～10月）

KDDI総合研究所 シンクタンク部門　キム ダジョン
問合せ https://www.kddi-research.jp/inquiry.html

KDDI Research

Network API

独Vodafone、通信品質をオンデマンドで制御する「Quality on Demand」Network APIの提供を開始

- 独Vodafoneは、ドイツで、企業・開発者向けに通信品質をAPI経由で制御できる「Quality on Demand」の提供を開始した。利用者は用途に応じて、事前に設定された通信品質プロファイルを選択できる。
- ドイツを初期導入市場とし、今後は他国への展開も予定している。本サービスはGSMA Open Gatewayの標準仕様に基づくNetwork APIとして提供され、通信品質そのものをAPI経由で外部に提供・収益化する取り組みとして注目される。

サービス	• Quality on Demand Network API
特徴	• 用途に応じて通信品質プロファイルを選択
用途	• 決済端末、映像伝送、配車サービス、ドローン等
効果	• 混雑時でも安定した通信品質を確保

5G NWスライシング

豪Telstra、Microsoft Teams通信専用の5Gスライスサービスの提供を開始

- **Telstraは、Microsoft Teamsのビデオ通話・音声通話など向け**に専用5Gスライスを提供する「Dynamic 5G for Video Calling」を開始した。
- 同サービスは、5GSA上でTeamsの通信を自動識別し、専用5Gスライスに接続することで、ネットワーク混雑時でも必要な通信品質を確保でき、固定回線の利用が難しい建設・物流・製造・重要インフラ分野での活用が想定される。

サービス	• Dynamic 5G for Video Calling
特徴	• Teams向けアプリケーション専用5Gスライス
効果	• 混雑時でも最低通信品質を確保し、安定したビデオ通話を支援
想定用途	• 建設・物流・製造・重要インフラなど



下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

Copyright(C) 2026 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.

KDDI総合研究所 海外5G/6Gトピックス（26年9～10月）

KDDI総合研究所 シンクタンク部門 キム ダジョン
問合せ https://www.kddi-research.jp/inquiry.html

KDDI Research

AI-RAN

Nokia、NVIDIAとAI-RANの商用化に向けた取り組みを加速

- Nokiaは、NVIDIAと連携し、**基地局の通信をAIで最適化する「AI-RAN」の商用化**を進めている。Elisa、BT、Deutsche Telekom、Orangeなどの通信事業者とは、実際のネットワーク環境で試験や性能検証を行っている。
- ElisaはNokia、NVIDIAと共同で、5Gの実ネットワーク上で音声通話やデータ通信、映像分析を同一のAI-RAN基盤上で実証した。Deutsche TelekomはNokiaと共同で、AIを活用した通信性能を検証した。
- **Nokiaは今後、AI-RANを通信だけでなく、周囲の状況を把握するセンシングやエッジAIにも活用**する。さらに、5G／5G-Advancedの性能向上を進めるとともに、AIの活用を前提に設計する「AIネイティブ6G」への移行を目指す。

技術	• AI-RAN
事業者	• Nokia、NVIDIA、Elisa、BT、Deutsche Telekom、Orange
AI適用	• 電波状況の把握、無線リソースの最適化
効果	• ネットワーク性能向上、上りスループット10～15%向上（DT、実験室測定）
将来	• センシング・エッジAI、AIネイティブ6G

5G SA

米T-Mobileと印Jio、世界初の商用5G SAローミングを実現

- **米T-Mobileと印Jioは、米Syniverseの接続基盤を活用し、世界初となる商用5G SAローミングを実現**したと発表した。
- これにより、異なる通信事業者の5G SAネットワークを相互接続し、海外渡航先でも5G SAの利用を可能にした。Syniverseは、ネットワーク間の安全な接続を支えるSEPP機能*などを提供し、相互接続を支援した。
- 5G SAローミングにより、海外でも高速・低遅延で安定した通信が可能になる。今後は、IoTやリアルタイム通信など、5G SAの特性を活かしたサービスへの展開が期待される。

*SEPP（Security Edge Protection Proxy）：5G SAローミング時に、異なる通信事業者のネットワーク間を安全に接続するための機能

事業者	• 米T-Mobile、印Jio
内容	• 世界初の商用5G SAローミング
意義	• 異なる5G SA網の国際相互接続を商用環境で実現



下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます
Copyright(C) 2026 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.

KDDI総合研究所 海外5G/6Gトピックス（26年9～10月）

KDDI総合研究所 シンクタンク部門 キム ダジョン
問合せ https://www.kddi-research.jp/inquiry.html

Upper 6GHz

e& UAE、世界初の商用U6GHzを開始

- UAEの通信事業者**e& UAEは、Upper 6GHz（U6GHz）帯を活用した世界初の商用モバイルネットワークを開始したと発表**した。既存の5.5G にU6GHz帯を追加し、5G-Advancedの高度化を図るとともに、IMT-2030（6G）を見据えたネットワーク基盤の整備を進める。
- e& UAEは今後、同ネットワークをAIネイティブネットワークやXR、自律型産業システム、スマートシティなどの分野にも活用する方針である。

内容	• 世界初の商用U6GHzネットワーク
周波数	• 6425～6775MHz（Upper 6GHz）
技術	• 多数のアンテナを活用した大容量通信（256TRX Giga-MIMO）
最大帯域幅	• 350MHz
最大速度	• 下り10Gbps/上り1Gbps
想定用途	• AI、XR、自律型産業システム、スマートシティ

公共安全5G

EU、共通の公共安全通信基盤「EUCCS」の構築を提案

- 欧州委員会は、**警察・消防・救急機関等が利用する共通通信基盤「EU Critical Communication System（EUCCS）」の構築を提案**した。
- 各国の公共安全通信を従来の狭帯域無線から5G等の広帯域通信へ段階的に移行するとともに、地上網が利用できない場合は衛星通信でバックアップし、国境を越えた情報共有を可能にする。



概要	• EU共通の公共安全通信基盤「EUCCS」の構築を提案
対象	• 警察、消防、救急、市民保護機関
NW	• 狭帯域無線から5Gなどの広帯域通信へ移行
バックアップ	• 停電などで地上網が利用できない場合、EUの衛星通信を活用
主要機能	• データ、映像、メッセージ、位置情報をリアルタイムで共有
導入時期	• 2030年から段階的に接続・導入予定

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます
Copyright(C) 2026 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.

KDDI総合研究所 海外5G/6Gトピックス（26年9～10月）

KDDI総合研究所 シンクタンク部門 キム ダジョン
問合せ https://www.kddi-research.jp/inquiry.html

NWスライシング

独通信3社と独RTL社、Network API・NWスライシングを放送制作で実証

- 独通信3社（Vodafone、Telefónica、Deutsche Telekom）と独メディア大手RTL Deutschlandは、DFBポカールの試合会場で、**QoD APIとNWスライシングを活用したテレビ番組制作の実証実験を実施**した。QoD APIは、用途に応じて必要な通信品質をAPI経由で指定・確保できる仕組みである。
- 実証では、多数の観客によるネットワーク混雑時でも、映像・音声の伝送や制作スタッフ間の通信に必要な品質を確保できることを確認した。VodafoneとTelefónicaはQoD API、Deutsche TelekomはNWスライシングを活用し、モバイルネットワークを使った放送番組制作への適用可能性を示した。

実証環境	• 多数の顧客による通信混雑環境
QoD API	• 音声・映像伝送など通信品質をオンデマンドで確保
NWスライス	• カメラ映像向けに専用帯域と安定した通信を提供
検証対象	• 映像伝送、音声通信、制作スタッフ間の連携など
成果	• 混雑環境でも通信品質を維持し、放送制作への適用可能性を確認

衛星D2D

米3大通信事業者、D2D衛星通信の拡大に向けJVを発足

- AT&T、T-Mobile、Verizonは、米国内の通信圏外地域の解消と衛星通信の普及拡大に向け、共同出資会社（JV）の設立で合意した。
- 3社は既存の衛星事業者との提携を維持しながら、スマートフォンと衛星を直接接続するD2Dを含む衛星通信サービスの共通技術仕様を整備し、事業者間で一貫した利用体験の実現を目指す。

設立目的	• 衛星通信を活用し、デッドゾーンの解消を推進
共通仕様	• 業界共通の技術仕様を整備し、利用者体験を統一
エコシステム	• OS事業者、アプリ開発者、端末メーカーなどを含む標準化を推進
周波数活用	• 3社の限られた周波数資源を共同で活用

Copyright(C) 2026 KDDI Research, Inc. All Rights Reserved.